

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 久慈地方みどりの食料システム戦略推進協議会
都道府県 岩手県
対象地域 久慈市、洋野町、野田村、普代村
対象品目 ピーマン（露地）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	● 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

岩手県久慈地域では、近年、新規就農者を中心に露地ピーマンの作付面積が増加している。露地ピーマンの慣行栽培では、ポリマルチによる畦の被覆と点滴チューブを利用したかん水技術による栽培が一般的である。

一方、温室効果ガス排出量のうち、現状の食料システムからの排出量が占める割合は高く、削減に向け取り組むことが重要である。また、野菜栽培においては、栽培管理に多くの労力を要することから、経営規模拡大のためには、省力的な栽培技術の導入が必要である。

このため、マルチの回収・処理が不要であるとともに、温室効果ガスの排出抑制に貢献できる「バイオマス由来の原料を含む生分解性マルチ」と、かん水や追肥の作業の省力化を図ることが可能な「自動かん水システムによる点滴かん水技術」の導入を図り、環境負荷低減と省力的な栽培技術の確立を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		圃場準備	定植	収穫				片付け					
技術名		マルチ張り						マルチ剥ぎ	マルチ回収				
			株元かん水	点滴チューブかん水									
				追肥									10日から2週間に1回粒状肥料を通路に追肥



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		圃場準備	定植	収穫				片付け					
バイオマス田米を含む生分解性マルチの導入		マルチ張り						マルチすき込み					
吐出口間隔10cmでの点滴かん水			点滴チューブかん水										
自動点滴かん水装置の導入				追肥									日射比例式の自動かん水装置で液肥かん水

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	1.1	▶ 1.6	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 1.6	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 1.6	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 1.6	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	ポリマルチで栽培し、栽培終了後にポリマルチを剥ぎ取り、回収する。	▶ バイオマス由来を含む生分解性マルチで栽培し、栽培終了後には圃場にすき込む。	ポリマルチの使用量削減 マルチの剥ぎ取り・回収作業の削減
省力	定植直後には株元に手かん水を実施して活着を促進し、活着以降は、点滴かん水チューブ（吐出口間隔20cm）でかん水を行う。	▶ 点滴かん水チューブ（吐出口間隔10cm）を導入し、定植直後からかん水チューブでかん水を行う。	定植直後から活着までの、株元かん水の省力化
環境 省力	手動かん水・粒状肥料を追肥	▶ 蓄電式ソーラー自動かん水システムの導入し、液肥かん水を行う。	かん水管理作業時間の削減 追肥の減肥

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	マルチの剥ぎ取り・回収に係る作業時間（時間/10a）	10.6	▶ 0	マルチの剥ぎ取り：8.4h/10a マルチの巻取回収：2.2h/10a
省力	株元かん水の作業時間（時間/10a）	13.9	▶ 0	
環境 省力	追肥における化学肥料の使用量（窒素成分量/10a）	15.0	▶ 10.0	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・ＪＡや普及センター等で開催している栽培指導会や研修会を通じて、農業者に対して、グリーンな栽培体系の取組や導入効果を紹介し周知を図ることにより、環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の普及・定着を図る。
- ・省力化に資する技術の核となる自動かん水装置については、補助事業等により導入費用の低減を図るとともに、省力化のメリットが大きい規模拡大志向者を中心に導入を推進し、産地の持続的発展を目指す。

関係者の役割

関係者名	生産者	久慈市、洋野町、野田村、普代村	新岩手農業協同組合（久慈）	久慈農業改良普及センター
役割	・実証圃場の設置・管理 ・技術展示による情報発信	・取組状況把握 ・助成事業等の検討	・指導会、検討会の開催 ・成果の産地内への普及	・事業の進行管理 ・実証圃場の設置支援 ・実証技術の検証 ・栽培マニュアル・産地戦略の策定 ・情報発信、成果の普及